

第3章 文昌校時代



台中市大甲区 文昌祠

1 文昌祠居所

哲太郎は、鎮瀾宮の陸軍病院で療養中だったが、病も癒え、家永苗栗弁務署長の好意により、文昌祠の大甲公学校の代用教員として、苗栗庁雇員の身分で辞令を渡された。鎮瀾宮から文昌祠に移ったのが明治32（1899）年2月のことである。


文昌祠は、同28年8月24日、台湾征討近衛師団長北白川宮能久親王が、大甲の戦役で負傷され、野戦病院として使用されたところである。昭和10年、日本人によって文昌祠の前庭に同親王御遺蹟碑が建てられたが、戦後、国民党により取り壊された。

文昌祠は学問の神様文昌帝君を祀り、明治21（1888）年、清朝時代に建てられた。ここを学校として使用し、最初に居住した日本人は、同31（1898）年に開校した苗栗国語伝習所大甲分校の教諭瀧野彌市である。瀧野は文昌祠の東西の廂房を教室として使い、正殿東側の部屋を宿舎とした。国語伝習所は翌年廃止され、代わって大甲公学校が創設され、瀧野の宿舎を金子政吉校長が住まいとした。

哲太郎は西側の部屋を宿舎とし、日本式に改造した。間取りは六畳・四畳半の二間と台所で、ここでソデとの生活をスタートさせた。

金子校長の宿舎	教室(明治31年建立)		
	廂	通路	廂
正殿 明治21年建立		拝殿	
	廂	通路	廂
志賀哲太郎の宿舎	教室(明治31年建立)		

文昌祠平面図



文昌祠
(明治31年憲兵上等兵原源造撮影)



北白川宮能久親王御遺蹟碑（昭和10年建立：大甲区公所提供）



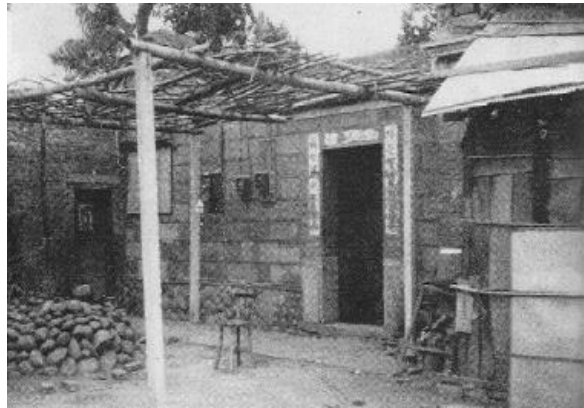
教諭瀧野彌一の宿舎跡 H28. 2撮影



文昌帝君像 (台公区公所提供)

○苗栗國語傳習所
 教諭 六 富田仙太郎 六
 七 方波見幸之助
 助教諭 七
 書記 岩邊 知言
 六 今任 渡田 仲次 七 主任委員 堀越鐵太郎
 前委員 堀越鐵太郎
 瀧野 彌市

M31台湾総督府職員録引用



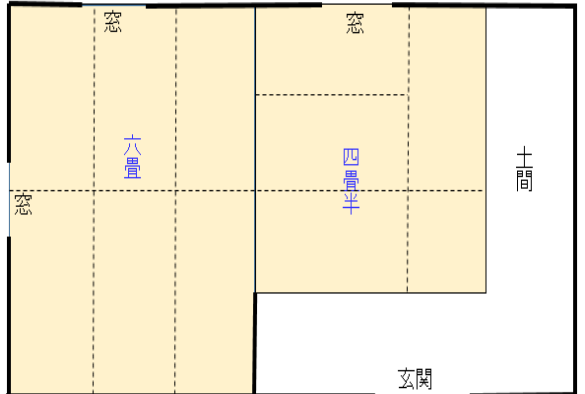
当時の哲太郎宿舎入口 (大甲村庄史引用)



現在の入口 (大甲区公所提供)



土間と四畳半の間 (志賀哲太郎記念室) H28. 2撮影
 哲太郎入居時33歳



哲太郎宿舎間取り



哲太郎寝室兼書斎の六畳の間 (志賀哲太郎記念室)



哲太郎宿舎玄関 (志賀哲太郎記念室) H28. 2撮影

2 文昌校

大甲公学校は、明治31(1898)年10月、苗栗国語伝習所大甲分校が廃止された後にできた。教室は伝習所時代使用していた東西建物と拝殿、運動場は文昌祠前の庭を使用した。哲太郎は事前の研修として、同32年2月25日から同年4月30日まで房裡出身の雇教員陳瑚(元新竹県)に従い、台湾語を学んだ。5月1日に正式採用の辞令を受け、同月19日から大甲公学校で授業をはじめた。同34(1901)年8月17日からは5週間にわたって授業法・国語、心理及び唱歌の講習を受けている。

開校当時の生徒は40余人で、男子生徒はまだ辮髪(べんぱつ)の時代であった。生徒数が増え教室が不足したため、元新竹県参事呉朝宗(呉淮水の実父)が建設委員長となって、明治35年9月18日に簡易な教室ができた。

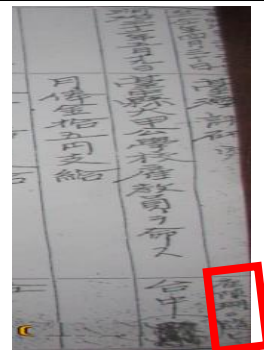
現在、文昌祠北側の公園に「大甲文昌」の碑があり、そこには「志賀老師・關心大甲衆學子」、「志賀：志賀哲太郎・日本熊本上益城郡人・大甲學校代課教師・為大甲學子殉命・被譽為『大甲的聖人』・有出專書」と、哲太郎が熊本益城の人で、代用教員として大甲子弟の教育にあたって職に殉じ、大甲の聖人と呼ばれていると記されている。



文昌祠 (志賀哲太郎傳引用)



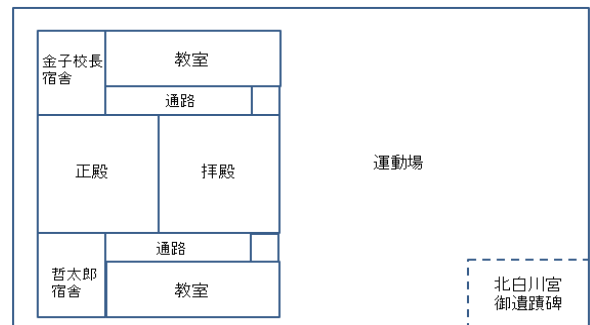
辮髪の杜瑞抱 M40卒
大甲老照片一引用



履歴書に陳瑚に従い研修
(大甲区公所提供)



苗栗国語伝習所大甲分校の生徒(大甲老照片引用)



文昌祠平面図



東側教室の内部 H28.2撮影



拝殿も教室として使用 H28.2撮影



碑文を書かれた張慶宗先生

「大甲文昌」碑 志賀老師の名 (H29. 11撮影)

臺灣總督府公文類纂
秘書
陳瑚 教員雇二採用 (元新竹縣)
起: 1897-08-01(明治30年)
迄 1899-06-01(明治32年):)



哲太郎に台湾語を指導した陳瑚 当時25歳



北白川宮御遺蹟碑

運動場 (昭和17年修復時撮影 大甲区公所提供)



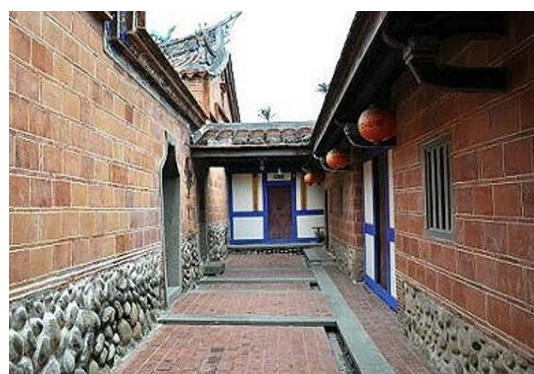
新教室の建設委員長 吳朝宗 (吳淮水の父) 当時34歳



志賀哲太郎 正式採用は明治32年5月1日 当時33歳



明治期の机・椅子・黒板(参考例)



正面は金子校長宿舍 H28. 2撮影

大甲公學校 苗架路三三號 大甲街

教諭 金子政 吉英威

校長(兼五) 橫張常次郎 廣島

訓導 汪清 水次英

八 志賀哲太郎 熊本

公醫 氏家 匡介 早

苗架左助 大甲左助 木多 友長 盛

大甲左助 木村武次郎 埼玉

苗架左助 月手富三

明治35年台湾總督府職員録引用

# 冊號/文號	件名	典藏號	時間	備註
2.09401/018	志賀哲太郎 雇教員二採用 (元臺中縣)	00009401018	1899-05-01 (明治32年)	明治三十二年 至 明治三十三年 元臺中縣公文類纂 永久保存進退第十五卷

哲太郎の雇教員採用は明治32年5月1日 (台湾總督府職員録引用)

3 就学制度

台湾総督府は、明治31(1898)年8月16日公学校規則を發布し、修業年限などを定めた。公学校の修業年限は6年とあるが、大甲公学校開校当初は、生徒数が少なく、保護者の経済的負担が大きいことから、金子政吉校長は4学年制にし、年齢は8歳以上14歳以下でスタートした。2学期制で1学期は2月1日から7月31日まで、2学期は8月1日から翌年1月31日までであり、クラスは拝殿に1学級、東西の両側の建物に1学級ずつと、3つの学級を置いた複式授業であった。教師は金子校長、大安出身の汪清水、哲太郎の3人であったが、同年8月からは雇教員陳藻芬も加わった。金子校長は常に哲太郎、汪清水ら教師と酒を酌み交わし、学校の事について話し合った。

臺灣公學校規則

臺灣総督府令第七十八號
明治三十一年八月十六日

第一条 公學校ハ本島人ノ子弟ニ徳教ヲ施シ實學ヲ授ケ以テ國民タルノ性格ヲ養成シ同時ニ國語ニ精通セシムルヲ以テ本旨トス

第二条 公學校ハ土地ノ情況ニ依リ別ニ速成科ヲ設ケ夜間休業日又ハ其他通常ノ教授時間外ニ於テ専ラ國語ノ教授ヲ爲スコトヲ得

第三条 公學校ノ生徒ハ年齢八歳以上十四歳以下トス

第四条 公學校ノ教科目ハ修身、國語、作文、読書、習字、算術、唱歌、體操トシ其修業年限ハ六箇年トス

第九条 其知識、技能ノ体得、实用ヘノ適合モ求メルベキデ有ルガ爲ニ、平常ノ生活ニ於テ必須ノ事項ヲ選択して之ヲ教授シ、反復練習シ、自在に応用シ得ル



校長
金子政吉
当時29歳
茨城県



雇教員
志賀哲太郎
当時33歳
熊本県

姓名	汪清水
本籍	臺灣
日本紀年	明治三十六年
西元紀年	1903
單位名稱	苗栗廳大甲公學校
官職名	訓導
薪俸	八
書冊名(出處)	《臺灣總督府職員錄》



雇教員
陳藻芬
当時26歳
本島人

大甲公學校	
苗栗廳苗栗三堡大甲街	
教諭	金子政吉
校長(兼)	金子政吉
七 訓導	橫張常次郎
八 雇	汪清水
九 雇	志賀哲太郎
十 雇	陳藻芬
公醫	陳藻芬
苗圃在勤	氏家 匡介
大甲在勤	木村武太郎
大甲在勤	本多 友長

明治36年台湾総督府職員録引用



大甲公学校授業風景 (昭和期：大甲國民小學提供)



明治30年代の公学校授業風景 (台北写真帖引用)

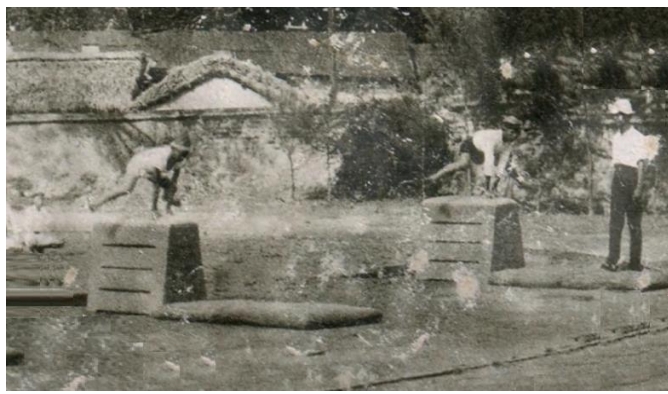
4 教科

公学校の教科は、前記「台湾公学校規則」第四条により修身、国語、読書、作文、習字、算術、唱歌、体操の8教科が行われた。その中の国語、読書、作文、習字の4教科は一週間の授業時間の7割以上を占め、その比率は低学年になるほど高かった。この4教科は哲太郎が得意とする教科でもあった。唱歌は不得手で汪清水先生に受け持ってもらった。

哲太郎は熱心に分かりやすく教え、特に修身はお手のもので、四書五経で鍛えた妙句により、生徒の受けは上々であった。また習字は、生徒の手を握って書き添える指導を行い、生徒の頭上での哲太郎の鼻息について、卒業生たちは温かく抱かれるような感じであったと、後年、目を潤ませて懐かしがっている。

体操は不得手だったようで、笛を吹いて整列させると、フットボールを高く放り上げて遊戯させた。皆楽しく遊び、後は木陰で色々と話をする。生徒にとっては、体操の時間が最も楽しい時間であったようで、精神体育ともいうべきものであった。授業は、総督府発行の教科書を使用し、学業成績の評価は、甲乙丙丁の4段階で行われた。

<p>第一課 学校時刻を守れ 第二課 友達は仲良くせよ 第三課 行儀よくせよ 第四課 整頓 第五課 綺麗にせよ 第六課 親の恩 第七課 親の言いつけを守れ 第八課 兄弟仲良くせよ 第九課 天皇陛下 第十課 国語を勉強せよ 第十一課 親切 第十二課 自分の物と人の物 第十三課 嘘を言わない 第十四課 過ちを隠すな 第十五課 生物を苦しめるな 第十六課 人に迷惑をかけるな 第十七課 悪い子供 第十八課</p>	<p>卷一 第二種 児童用 公學校修身書卷一 臺灣總督府</p>	<p>教師用 公學校修身書 臺灣總督府 168982 卷三</p>	
<p>公学校修身書(「臺灣總督府學務部」引用)</p>		<p>修身教科書教師用</p>	
 <p>上の繪の教師と幾人ありや 答 茶 弟子の小兒、幾人ありや 答 茶 批の上の、批、幾枚ありや 答 茶 批の足、幾本ありや 答 茶 五片手の、指、幾本ありや 答 茶</p>		<p>ココロ ヨク ユルシテ ヤリマシタ 阿仁ノウチデハミンナソロツテ バンノゴハンヲタベテキマス オハアサンガツギノニチエウビ ニマチノベウヘオマキリニ イカワトイハレマシタ阿仁モ 十六カテイ</p> 	<p>公學校用 國語讀本 第一種 臺灣總督府 卷六</p>
<p>5年生国語算術教科書(臺灣總督府學務部引用)</p>		<p>大正12年発行の公学校用国語讀本(臺灣總督府學務部引用)</p>	
	<p>公學校唱歌集 臺灣總督府</p>	<p>五がくもん 金次郎は十六の時 をうしなひました やがて二人のおどろ どは母のさとに引取 られ、金次郎はまん べとといふをらの家 へ行つて、せわにな りました。</p>	<p>公學校國語教授書 臺灣總督府</p>
<p>大正5年の公学校唱歌集(臺灣總督府學務部引用)</p>		<p>国語教授書(臺灣總督府學務部引用)</p>	



大甲公学校の体操(跳び箱) 昭和期撮影(大甲國民小學提供)



理科と教師用日本史
(臺灣總督府學務部引用)



体操 昭和期撮影(大甲國民小學提供)

土	金	木	水	火	月	曜時	授業時間表
算	讀	修	算	修	讀	一時	
讀	算	算	讀	算	算	二時	
地	歴	讀	綴	讀	理	三時	
書	話	書	唱	体	理	四時	
	綴	商	地	歴	商	五時	
	体	圖	商	閑		六時	

公学校の授業時間表
(台南歷史博物館資料引用)



行進 昭和期撮影(大甲國民小學提供)

学業成績
及び
出席状況
(他公学校参考)

昭和期のもの
甲：10.9
乙：8~6
丙：5.4
丁：3以下

年	學	第	年	學	第	年	學	第	年	學	第	年	學	第	年	學	第	年	學	第
3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1
甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙
...

5 生徒勧誘

明治32(1899)年公学校開校当時の台湾の就学率は、全公学校平均で2.04パーセントと極めて低かった。子供も労働力であり、教育に対する保護者の理解が無かったためである。そのようなことから、大甲公学校が開校して数年は、一学年10人程度で、日々の出席率も悪く、卒業生も一桁で、生徒の募集に苦労した。哲太郎は、保護者の理解を得るため、毎週日曜日に手弁当で、遠方の大安、日南、外埔まで足を伸ばし、学齢期の子供の居る家や、せっかく入学したのに休んでいる子供の家を、一軒一軒訪ね、教育の尊さを説いて回った。

教え子の陳嘉瑜、黄並傳らが教師として大甲公学校に赴任すると、一緒に生徒の募集を続けた。この地道な努力により、就学児童もだんだんと増えていき、亡くなる大正13年には138名の卒業生を出すに至り、昭和にできた校歌には「集うや健児千四百」とあり、この頃には毎年200名以上が卒業していたことがわかる。

昭和3(1928)年の大甲公学校創立30周年祝典時に残された文章には、内地(日本)の就学率は97~99パーセント、台湾は50パーセント代、大甲地方は70パーセント代とあり、昭和14年の「大甲街街勢要覧」には、大甲公学校の就学率は69.69パーセントで、台湾全土の平均より約20パーセントも高く、哲太郎の努力を裏付けている。

また、明治期には学年課程を修了すれば修業證書なるものを出していた。





陳嘉瑜
M37卒(第1回)
M42赴任 21歳



黄並傳
M37卒(第1回)
M42赴任 22歳

年 度	項 目			年 度	項 目			年 度	項 目	
	就学者	就学率	日々出席率		就学者	就学率	日々出席率		就学者	就学率
1898(第31)	6,136	-	-	1909(第42)	40,037	5.54	78.99	1920(9)	152,776	25.11
1899(32)	9,817	2.04	-	1910(43)	43,197	5.76	83.55	1921(10)	172,805	27.22
1900(33)	12,363	2.19	-	1911(44)	47,104	6.06	84.80	1922(11)	187,332	28.82
1901(34)	16,315	2.85	-	1912(大元)	52,504	6.63	87.35	1923(大12)	184,237	28.60
1902(35)	18,845	3.21	-	1913(2)	58,618	8.32	89.36	1924(13)	184,109	28.69
1903(36)	21,406	3.70	59.64	1914(3)	66,404	9.09	90.10	1925(14)	190,337	29.00
1904(37)	23,178	3.82	60.66	1915(4)	72,218	9.63	90.90	1926(昭元)	188,166	28.42
1905(38)	27,464	4.66	61.82	1916(5)	82,788	11.06	92.67	1927(昭2)	196,229	29.18
1906(39)	31,823	5.31	65.52	1917(6)	100,312	13.14	93.69	1928(3)	204,795	29.79
1907(40)	34,382	4.50	69.45	1918(7)	120,215	15.71	91.99	1929(9)	218,253	30.68
1908(41)	35,991	4.93	75.96							

公学校生徒及び就学率(日本統治下の台湾・朝鮮植民地教育政策の比較史的研究引用)

区分	性別	就学児童	未就学児	計	就学率
大甲公学校	男	3,154人	857人	4,011人	78.63%
	女	3,111人	1,868人	4,979人	62.48%
	計	6,265人	2,725人	8,990人	69.69%
台湾公学校平均	男				64.49%
	女				34.12%
	計				49.82%

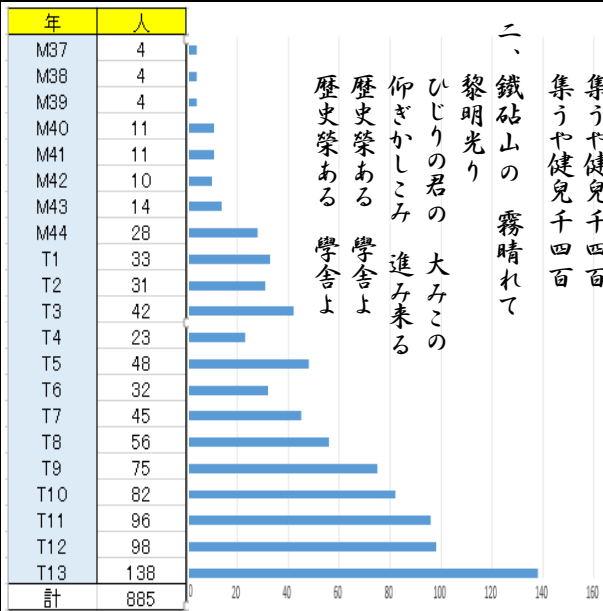
大甲公学校就学率昭和14年統計
大甲街街勢要覧引用



公学校卒業證書(嘉義公学校参考)



大甲公学校修業證書(大甲國民小學提供)



大甲公学校卒業生の推移

大甲公学校校歌

一、南の國の 中つ方
 大甲原に 地をしめて
 日に新たなる 日の本の
 久遠の榮を 祈りつ
 集うや健兒千四百
 集うや健兒千四百

二、鐵砧山の 霧晴れて
 黎明光り
 ひじりの君の 大みこの
 仰ぎかしくみ 進み来る
 歴史榮ある 學舎よ
 歴史榮ある 學舎よ
 歴史榮ある 學舎よ



哲太郎（46歳頃）と教え子教師たち
 T1頃「大甲村庄史」引用



大甲公学校創立30週年記念式典昭和3年11月17日



第14回卒業記念大正6年3月
 大甲老照片專輯二 引用



第15回卒業記念 大正7年3月（1918）大甲老照片專輯二 引用 哲太郎52歳



第17回卒業記念 大正9年3月 (1920) 大甲老照片專輯二 引用 哲太郎54歲



第20回卒業記念 大正12年3月 (1923) 大甲老照片專輯二 引用 哲太郎57歲



第21回卒業記念 大正13年3月 (1924) 大甲老照片專輯二 引用哲太郎58歲



第22回卒業記念 大正14年3月 (1925) 大甲老照片專輯二 引用



第25回卒業記念 昭和3年3月 (1928) 大甲老照片專輯二 引用



教室前広場 昭和3年撮影

年度	職員録	公 学 校					熊本県出身 教員数
		全 体					
		学校数		教員数			
		本校	分教場	日本人	「台湾人」		
明治28~30年	欠						
31		74	—	127	120	*	
32	欠						
33	欠						
34	欠						
35	欠						
36		134	12	264	385	18	
37	欠						
38	欠						
39		151	29	281	455	22	
40	欠						
41	欠						
42	欠						
43	欠						
44	欠						
45		187	61	451	808	20	
大正2年	欠						
3	欠						
4	欠						
5	欠						
6		229	98	833	1359	45	
7		263	131	927	1752	50	
8	欠						
9	欠						
10	欠						
11	欠						
12	欠						
13		516	209	1631	3515	149	

熊本県出身教員数 弘谷多喜夫氏提供

6 進学のと勧めと就職の斡旋

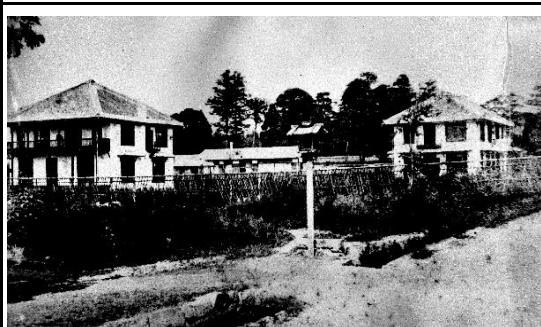
哲太郎は、優秀な生徒には進学と留学を勧めた。台北師範学校、台中師範学校に入学する者も多く、それが卒業して大甲公学校の教師となって着任して来ると、我が子が帰って来たように喜んだ。大甲公学校は、就学率の向上とともに、上級学校への進学者も増加し、昭和14年の大甲街街勢要覧では、上級学校進学者は約1割を超え、他校の倍近くであった。

大甲に開業した哲太郎の教え子の医師朱青松は、明治44（1911）年に大甲公学校卒業後、大甲区から日本留学の第一号学生として、京都の同志社中学に進学した。同志社中学卒業後、台湾に帰り、大正6（1917）年、難関の總督府台湾医学専門学校に合格。大正13年（1924）の23人の卒業生の中で、ただ一人の台湾人であった。大正8年卒業の北京大学教授となった吳墩禮は、哲太郎の第一号の東京帝国大学の卒業生である。

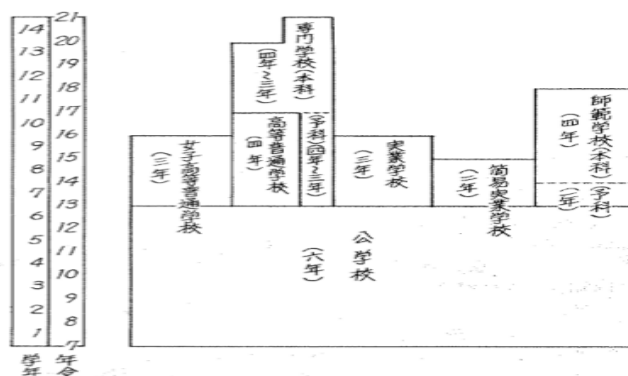
また、哲太郎は、卒業生の就職紹介には特に力を入れた。当時は公学校以上の学校は数校しかなく、公学校を卒業すれば引っ張りだこの状態であった。しかし、哲太郎は心血を注いだ教え子をいい加減なところに就職させたくない一心で、よき就職のため奔走した。同じ所に二回も三回も、場合によっては5回も6回も足を運んで交渉し、教え子の将来を確保した。

学校別	高等科	上級学校	官吏	医師	実業	その他	計
大甲農業国民学校	0	0	16	0	3	19	38
大甲小学校	4	45	25	0	40	11	125
大甲公学校	523	286	89	5	823	1,168	2,894
大甲女子公学校	1	30	0	0	39	569	639
日南公学校	15	36	5	0	309	234	599
頂後厝分教場	9	3	0	0	162	19	193
計	552	400	135	5	1,376	2,020	4,488

大甲各学校の進学者数（昭和14年統計 「大甲街街勢要覧」引用）



留学生第一号朱青松が留学した同志社中学



進学システム（日本統治下の台湾・朝鮮植民地教育政策の比較的研究引用）



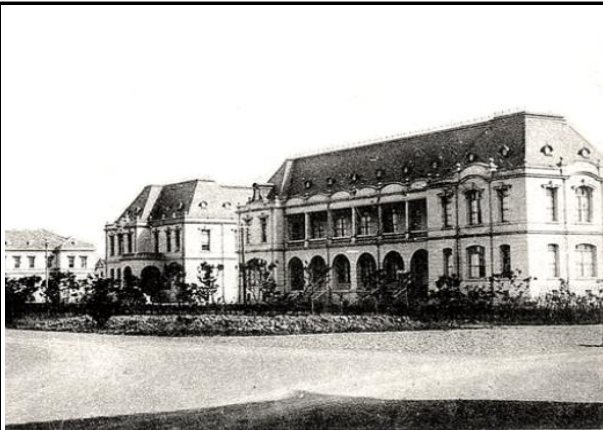
吳墩禮が留学した東京帝国大学
（東京大学140年年譜引用）



北京大学教授
吳墩禮 T 8 卒



医師
朱青松 M44卒



朱青松が学んだ台湾医学専門学校
(杉田書店発行引用)



青松医院前 昭和2年撮影
「大甲老照片專輯二」引用

大甲公学校留学生一覧

大甲鎮誌から

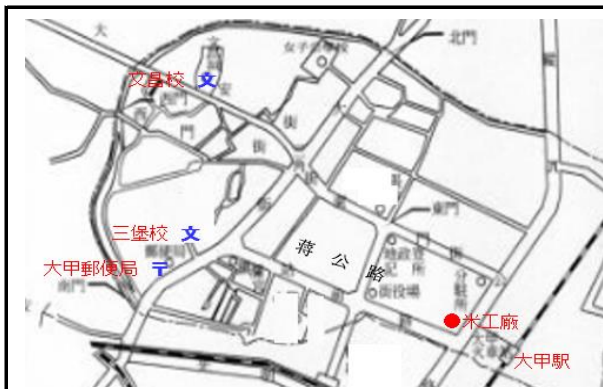
姓名	性別	出身地	学校名	父親
朱青松	男	平安里	同志社中学	朱麗
朱江淮	男	平安里	京都帝国大学工学部電気科	朱麗
朱叔河	男	庄美里	立命館大学法律科	朱麗
朱瑞源	男	庄美里	大阪工業大学土木科	朱麗
朱希直	男	平安里	東京興亜医学館	朱青松
朱希賢	男	平安里	東京興亜医学館二年級	朱青松
朱希哲	男	平安里	英国ロイヤル大学医学部	朱青松
朱紫陽	男	平安里	米国カリフォルニア州大学	朱瑞庚
朱嘉陽	男	平安里	米国シカゴ大学材料博士	朱瑞庚
李炳焜	男	文武里	同志社大学	李進興
李葉壁	男	文武里	早稲田中学	李進興
李葉奎	女	文武里	同志社女学校高等序学部	李進興
郭金童	男	日南里	早稲田中、早稲田大学	郭木火
王守勇	男	朝陽里	同志社中学	王大猶
王箴規	男	孔門里	旭山中学	王元吉
王明鏡	男	孔門里	高松中学	王燕翼
郭重烜	男	日南里	同志社中学	郭木榮
郭正直	男	日南里	京都平安中学	郭木榮
郭英娥	女	頂店里	神戸高等女学校	郭金柱
陳焯	男	奉化里	カルフォルニア大学経済学部	陳鳳
陳坤山	男	社美里	神戸東神商業学校	陳啟明
黄希仁	男	新美里	早稲田大学	黄直發
黄金爐	男	朝陽里	神戸商業職業学校	黄清水
黄江鎮	男	朝陽里	明治大学政治学部	黄並傳
薛奇楠	男	南陽里	早稲田大学	薛寄草
薛凱榮	男	南陽里	東京工業大学	薛寄草
吳淮澄	男	薰風里	同志社中学	吳朝宗
吳 墩禮	男	文武里	東京帝国大学法学部	吳文
高 積前	男	孔門里	東都中学	高池

7 時間厳守

哲太郎の日課は、朝5時に起き水を浴び、それから東の空に向かって祖国の安泰を祈り、食前に勉強し、食後は袴、冬は羽織をつけ、中折帽子をかぶって、500メートルばかりの大甲駅（海線は大正11年10月開通）まで行き、駅の時計で自分のウォルサム懐中時計の時刻を合わせ、学校の時計を合わせた。駅が無かった頃は、郵便局の時計に合わせていた。

当時の台湾人は時間の観念がルーズで、20分や30分遅れることは当たり前であった。台湾総督府も、大正11年6月10日、「時間励行」等のポスターを各駅に掲示して、時間を守ることを呼びかけている。哲太郎は、この悪癖を矯正するため、時間には厳しく、生徒の遅刻には罰を加えた。学校に鐘を備えたのも彼の発案で、学校の鐘をカンカンと鳴らすことによって、時の観念を与えた。哲太郎がこの習慣を通し、26年間無遅刻、無欠席であったことは偉大と言わざるを得ない。

郵便局と駅舎は建て替えられたが、蔣公路には当時の面影を残す建物が数多く現存する。



時刻を合わせた大甲駅駅舎（大甲老照片引用）



大甲郵便局は当時と同じ場所にある（H29. 11撮影）



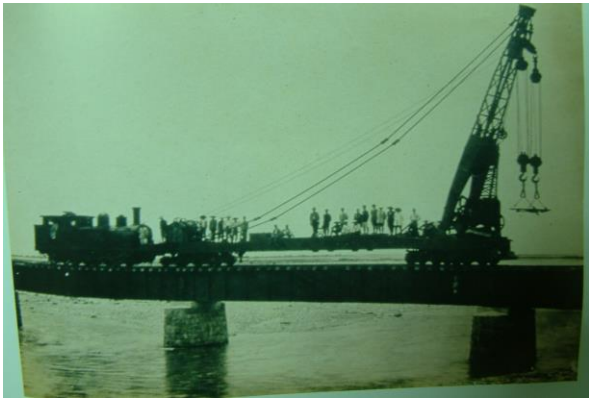
大甲駅プラットフォーム H29. 11撮影



哲太郎が通った駅前の蔣公路
昭和初期撮影 大甲老照片引用



現在の蔣公路（H29. 11撮影）
右の建物（→）は当時のまま



海線 大甲溪橋梁建設 ▲
(大甲区公所提供)

PROOF

THE MOST SCIENTIFICALLY BUILT WATCH IN THE WORLD

Scientific Method for Eliminating Eccentricities Which Mean Accurate and Dependability of Your Watch

...of selected ... ally to the vanishing point. And ... highly ... and highly ... to correct time-keeping ... which comes ... watch and ... or less over ...

In these governing functions of the escape-wheel an impulse is given to the movement, called 'kick' in the hands of the watch.

Think for a moment of the possibility of friction, which would mar the impulse at the point of contact. This is the danger which watch (illustrated above) 41220 (twenty-two-thousand) four hours!

Here was an opportunity for Waltham's invention to minimize friction 1/10th!

The Rivarola The most dependable machine ever made to the world \$75 and up

The Waltham Scientific Method, that of cutting and finishing with every parting cannot be equal without practice of the Rivarola method in the finished product. This is the scientific method of cutting and finishing which gives greater freedom and accuracy to the watch movement.

The process of making an escape-wheel in its teeth with every parting cannot be equal without practice of the Rivarola method in the finished product. This is the scientific method of cutting and finishing which gives greater freedom and accuracy to the watch movement.

The Waltham Scientific Method, that of cutting and finishing with every parting cannot be equal without practice of the Rivarola method in the finished product. This is the scientific method of cutting and finishing which gives greater freedom and accuracy to the watch movement.

WALTHAM
THE WORLD'S WATCH OVER TIME



中折帽子を被った哲太郎
(大甲老照片專輯二引用)



三堡の大甲公学校中庭 (昭和3年撮影「大甲老照片專輯二」引用)



鐘



大甲公学校創立20周年運動会 大正8(1919)年 (大甲國民小學提供)

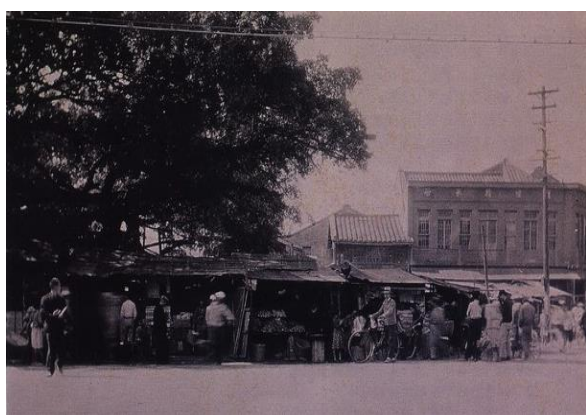
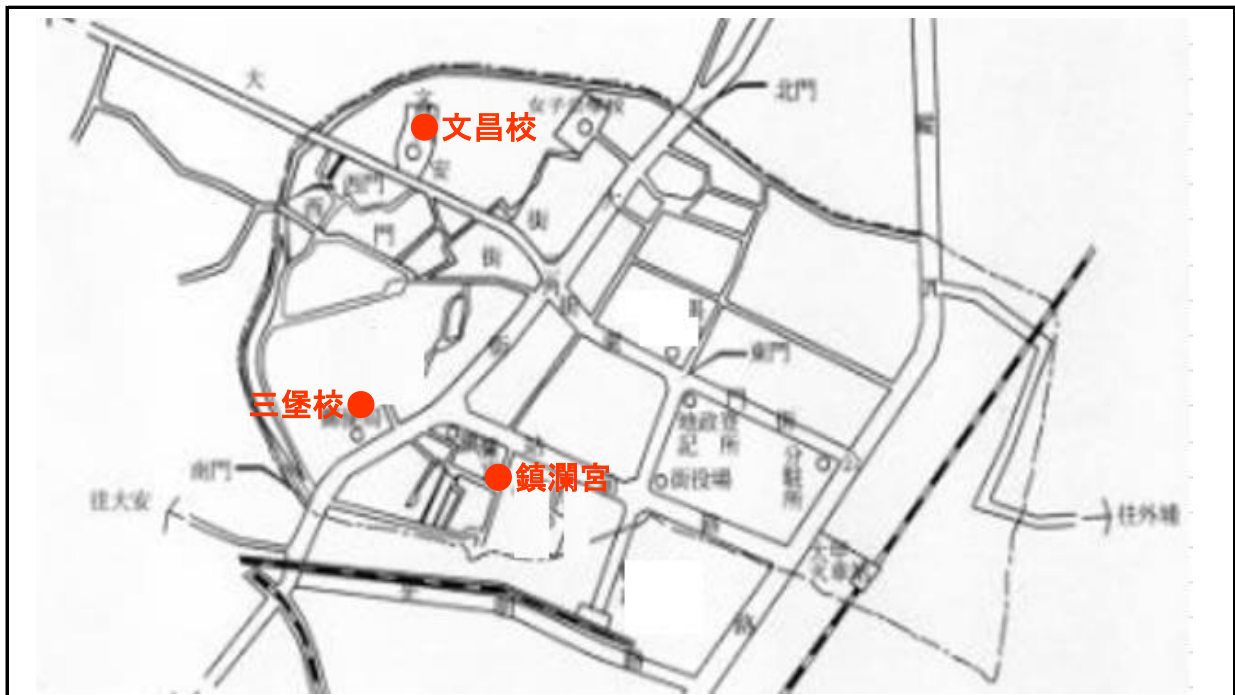


台湾総督府のポスター
(台湾歴史教科書引用)

8 礼儀

哲太郎の教え子であった教師郭朝輝は、大甲の民間に伝わる話として「嘉瑜賢（陳嘉瑜）は詩を作り、志賀さんには礼儀がある」と紹介している。哲太郎は、大甲の人々から「礼儀の人」と呼ばれた。鎮瀾宮前の広場には、百余年を経た榕樹（ようじゅ：ガジュマルの木のこと）が茂っており、その下で朝早くから杏仁茶（あんじんちゃ）の屋台店が出ていた。早起きした子供が茶碗を持って美味しそうに飲んでいて、哲太郎を見つけると「志賀先生だ」と友達に知らせ、寄ってきてはお辞儀をする。哲太郎も帽子をとって「おはようございます」と90度の答礼をする。子ども達はスタスタ歩き、哲太郎を追い越して、また立ち止まってお辞儀をする。そして、「先生に礼ができた」といって飛び跳ねて喜び、幾度となくこれを繰り返す。そんな微笑（ほほえ）ましい光景が日常的に見受けられたようだ。生徒にも街の子供達にも親しまれた哲太郎の徳の高さに頭がさがる。

鎮瀾宮前広場のガジュマルは、拝殿に向かって右手のものは枯れてひこぼえが若木になっており、左手のものだけが当時の面影を残している。また、子供達が飲んだ杏仁茶は、今も露店で朝のみ販売されている。甘くてとろみがある飲み物である。



鎮瀾宮前の榕樹と屋台
（「大甲老照片專輯二」引用）



現在の榕樹と屋台（H29. 11撮影）



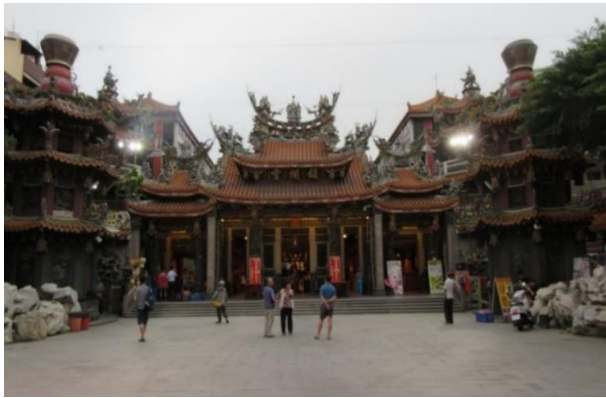
元大甲公学校教師
郭朝輝（教え子）



礼儀の人
志賀哲太郎



「衛社」の詩人
嘉瑜賢こと陳嘉瑜



現在の鎮瀾宮前広場 (H29. 11撮影)



現在の鎮瀾宮前広場の榕樹 (H29. 11撮影)



現在の蔣公路露店の杏仁茶店 (H29. 11撮影)



上記露店の杏仁茶 (H29. 11撮影)



帽子をかぶった哲太郎
(大甲老照片專輯二引用)

9 学費支援

哲太郎は、貧しい家庭の生徒には、石筆時代は石筆、鉛筆時代になってからは、鉛筆や紙を与え、病気の生徒には、牛乳、菓子、福神漬け、絵本等を持参して見舞った。ある時、一人の生徒が足に釘が刺さり、赤く腫れあがって授業に出て来れないと聞くと、すぐさま生徒の家に行き、生徒を背負って登校した。

授業で多くの生徒が、毛筆や習字紙、硯、墨を買うお金がないことを知るや、「材料はすべて自分が用意する」と宣言し、生徒を学び舎に呼び戻した。貧しくて勉学を続けられない生徒がいれば、すぐさま学費を提供した。哲太郎は、毎月の給料の大半を生徒のために充てたという。学費の支援を受けた生徒は、開校以来25年間で、300人以上に及んだ。

日本が統治するようになって、米価高騰につれ物価が上昇し、「本島貧民」と呼ばれる台湾人貧困層の増加が社会問題となり、総督府は、この救済に乗り出している。当時は、子供も大事な労働力であり、貧困家庭にとって、学費の支払いは厳しいものであった。

石筆時代から鉛筆時代と変わっていったのは、明治後期から大正にかけてである。最初の国産鉛筆が、明治20年の眞崎鉛筆で、のちの三菱鉛筆である。眞崎鉛筆は、大正期になって増産されており、哲太郎が鉛筆を与えたのは、大正期と思われる。

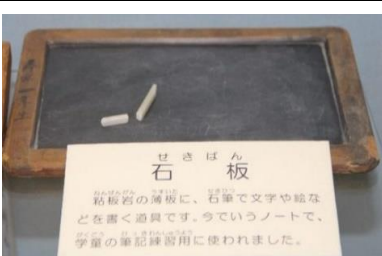
哲太郎は、病気の生徒に牛乳を持参して見舞っているが、当時、台湾では牛乳は病人の見舞い用とされていた。容器は、ガラスとブリキ製の2種で、蓋はコルクであった。またお菓子は、子供達に人気があったのが、新高製菓のドロップである。絵本は字を読めない子供にも内容を理解させることができ、明治中期には、木版刷りの赤本が刊行され、桃太郎をはじめとする多くの童話が、国内のみならず外国へも輸出されていたので、手に入れやすかったと思われる。



三堡校授業風景 昭和15年(1940) 撮影「大甲鎮志」引用



最初の国産鉛筆眞崎鉛筆 (のち三菱鉛筆)
「時代を書きすすむ三菱鉛筆100年」引用



石板(長野県箕輪町郷土博物館資料引用)



牛乳容器ブリキ製 (左) とガラス製



明治期の桃太郎の絵本 (聖徳大学所蔵)




明治期の新高製菓のドロップ

10 三宝

哲太郎は、常に修養につとめ、書齋には自分で書いた王陽明の「破山中賊易(さんちゅうのぞくをやぶるはやすく)、破心中賊難(しんちゅうのぞくをやぶるはかたし)」を掲げ、一日三省していた。これは、山賊を討ち果たすことはやさしいが、心の中の賊、私心を去ることは難しいという格言である。生徒には「自分は三つの宝を持っている。一つは慈悲、二は節儉、三は謙虚である。だから、いつも心は平穩無事だ」と言っていた。事実、彼が怒ったのを見た人はいない。故に聖人のようだと噂されるようになった一つの理由である。

ある年の新年宴会の席で、木藤という郵便局長の前に座り、杯を交わしていた。木藤局長は酒癖が悪く、始めは密柑の皮を投げたりしていたが、ついに杯を哲太郎めがけて投げつけた。それが顔に当たって、鮮血がほとばしり、顔を血で染めた。同席の人は、この様子を見て大騒ぎをしたが、哲太郎は静かに顔を拭き、泰然として飲み続けた。翌朝、酔いのさめた木藤局長は、このことを聞いて驚き恐れ入り、学校に飛んで行き、哲太郎に陳謝したが、哲太郎は笑っていたという。哲太郎は、教室以外で怒った顔を人に見せたことはなかった。

この郵便局長は台湾総督府職員録によると、佐賀県出身の木藤駒次で、同人は明治30(1887)年台北郵便電信局(一等)で、六等通信書記として採用され、同35年同局大稻支局長、同38年澎湖郵便電信局(二等)通信書記を経て、同42年11月から大正2年まで4年間にわたって、大甲郵便局長を勤めている。木藤局長は、過去に酒癖が原因と思われる問題で、支局長を更迭されている。なお、哲太郎が怪我したのは、明治43(1910)年1月の新年宴会と思われる。

 <p>王陽明</p>		<p>破山中賊易 破心中賊難</p> <p>哲太郎の座右の銘</p>		 <p>明治31年の台北郵便電信局(絵葉書引用) 当時、同局が木藤支局長を更迭する</p>	 <p>哲太郎 新年宴会席で負傷 当時44歳</p>
 <p>老子</p>		<p>一、一、一 謙 節 慈 虚 儉 悲</p> <p>生徒に三宝の教え</p>			
明治30(1897)年9月	電信書記に任用	氏名	木藤駒次	<p>局長五</p> <p>○大甲郵便局(二等)</p> <p>臺中縣 大甲街</p> <p>正八勳七木 藤駒次 佐賀</p>	
明治30(1897)年	台北郵便電信局	本籍	佐賀県		
明治35(1902)年	分限規定休職ヲ命ズ	件名	郵便電信支局長更迭		
明治36(1903)年	通信局電務課	日付	明治35(1902)年10月7日		
明治37(1904)年1月	復職命令ノ件	内容描述	通信書記木藤駒次休職、		
明治38(1905)年	澎湖郵便電信局		台北郵便電信局大稻埕		
明治39(1906)年	通信局電務課		支局長		
明治40(1907)年	台中郵便局		台北郵便局電信局電信		
明治41(1908)年	通信局電務課		課通信書記		
明治42(1909)年11月	大甲郵便局 局長		服部均 兼任		
大正2(1913)12月	依願免職				
<p>木藤郵便局長に関する記録(台湾総督府職員録引用)</p>					

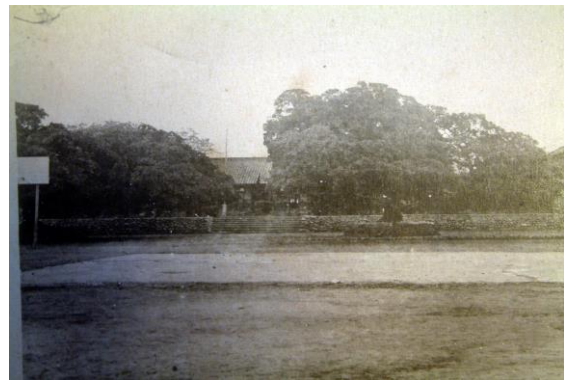
11 人間性の養成

哲太郎の片言隻語には、訓（おし）えるものが幾つもある。

歴史家張蔣明は、「先生は『人の字を見なさい、二人で支えている、一人では立ちいかぬ、二人が基になって百人、千人と組んで行く、それが人間社会だ。二人で組めない者、喧嘩する者は人間の屑だ。よく気を付けよう』、『人として信じ・恥じ・潔し、この三要素を忘れないこと。これは共同生活の基本を作るのに大事。反対は、信じない・恥じない・汚いで、この三ないの一つでも持てば、世間では仲間に入れず、人生の落伍者になってしまう』と教え、生徒が教室や運動場で紙屑を捨てようとする、『どんなに遠くても、必ずゴミ箱に捨てなさい』と、すぐさま厳しく叱った。その分、掃除に努めさせ『汚さず、清潔さを保つことは、人の心もまた清らかにする』と言い、また、草花に水をやる時も『花が咲く時ばかりが花ではない、まだ咲いていないときだって花なのだ。花が咲いたから注意して水をやるのではなく、開花していないときこそ水をやるのだ。そうしなければ枯れてしまい、樹木も無くなり花も咲かないことになる』と戒めた。喧嘩したり、どうにも手におえない生徒には、休み時間に、喧嘩相手と三脚を組ませて、運動場を一廻りさせ、反省させた。このように人間性を養う教育が行われた。」と述べている。



清掃された校庭 昭和8年撮影（大甲老照片引用）



二人三脚で走らせた運動場（大甲國民小學提供）



▲ 大甲東國民学校初等科 昭和16年撮影
（大甲國民小學提供）

平成21（2009）12月26日熊本日日新聞記事
（中村啓一氏提供） ▶

2009.12.26
志賀哲太郎は慶応2年、現益城町津森に生まれ、青年時代、国権党员として活動するが、台湾に渡り、明治32年から大甲鎮の大甲公学校に24年間代用教員として勤め、台湾の土となった。ひまを見つけては家庭を訪ね歩き、入学勧誘をし、子どもを打たない。

言葉のゆりかご

花が咲く時ばかりが花ではない。親切に教えてくれる志賀先生なら、孫を頼めるとおぼあさんが言ってくれるようになった。植木鉢の水やりで、花が咲く時ばかりが花ではない。咲かない時も花だと教えた。ハエ釣り名人で、生徒を供にして出かけた。生徒のヒタを見て回り、分配してやった。

「上達するまでは遠慮なく持って帰れ。同じ努力で収穫も平等でなくてはならない」
大正13年12月29日、水源池に身を投じた。羽織袴の正装で下駄をそろえての覚悟の自殺だった。59歳。原因は不明だが台湾の民族運動に悩んでいたという。山の中腹に教え子らによって大きな墓が建てられた。（智）

12 釣り

哲太郎の趣味は釣りで、休みになると弁当を下げて生徒と一緒に川辺に釣りに出かけ、幼少時代に木山川のハエ釣りで鍛えた腕を披露した。哲太郎は、毎回6～7斤(3～4kg)を釣り上げるのに生徒が何も釣れなかったりすると、いつも、その半分を分け与えた。生徒が遠慮して受け取らないと、「釣りの技術が未熟なのだから、上達するまで遠慮なく持って帰れ」、「同じ労力を費やしたのだから、収穫も平等でなくてはならない」などと言って、このようなときにも平等の精神を説いた。

哲太郎が釣りをした場所を郷土史家張慶宗氏に案内してもらおうと、そこは、鎮瀾宮から南へ約700メートルのところにある瓦溪であった。地元では水尾と呼ばれる釣り場である。大安溪や大甲溪で釣りをした話もあるが、大甲から片道約4キロメートルもあり、生徒を連れての釣場としては遠すぎる。水尾を流れる瓦溪は地元では大甲の溪とも呼ばれている。




また、一説に、哲太郎が筏を作って大量の魚を捕獲し、街民がこれをまねて筏漁をしたことで警察から筏税を課せられ、これに困った街民から相談を受けた哲太郎が警察へ赴き、筏税を撤回させたという話があるが、大甲ではこの逸話はない。筏税は、清朝時代から日本統治時代にかけて課税されており、もし筏漁を行えば、哲太郎自ら法律を破ることとなり、また、瓦溪は川幅が約2メートルと狭く筏を浮かべるような川ではないことなどから、この話は信憑性に乏しいと思われる。




13 男女の仲


ソデは、身長約140センチメートルの小柄な人で、美人ではなく、やや足が不自由であった。同居している哲太郎とソデは、男女の関係がないほうが不思議と周囲から勘ぐられていた。大甲帽蓆株式会社の職工養成をしていて、哲太郎と親しかった武藤友次郎（福島県）は、その真相を確かめようと、ある夜、哲太郎の家の戸を叩き、無理に入った。ところが、哲太郎とソデは別々の部屋で蚊帳（蚊などの害虫から人などを守るための網）を吊って寝ていたので、武藤は敬意を表したが、さらに「志賀さん、酔っぱらったら、蚊帳を間違えて入ることがあるでしょう。」と畳みかけたところ、哲太郎は、「いや、そんなことは絶対はない。」とはっきり答えたとのことである。

武藤は、台北時代に警察官をしていた人で、帽蓆市場の研究のため大甲に来て、明治36(1903)年4月、副区長朱麗、杜清らと大甲帽蓆会社を創設し、顧問を務めた。この男女の仲の真相確認は、台湾蚊の隆盛期からして、同年11~12月頃と思われる。武藤は、哲太郎の死を知ったとき号泣し、「自分も教育者になるべきであった。金は儲けたが、一生つまらない。先生が羨ましい。」と語ったとのことである。彼は、大甲街役場の助役も勤め、晩年は台中州内務部教育課で雇員として教育関係に就いている。

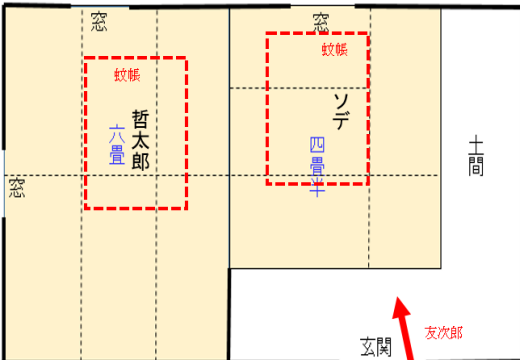
 <p>杜清 当時34歳</p>	 <p>武藤友次郎 当時36歳</p>	 <p>志賀哲太郎 当時38歳</p>	武藤友次郎 福島県	
			明治35（1902）年	台北庁警務課 警部補
			明治36（1903）年	大甲帽蓆株式会社 顧問
			明治38（1905）年	大甲帽蓆株式会社 代表
			大正9（1920）年	大甲庄協議会 会員
			大正11（1922）年	大甲街 助役
			大正14（1925）年	大甲街協議会 会員
			昭和9（1934）年	台中州内務部教育課 雇
			昭和15（1940）年	台中州内務部教育課 雇
			朱麗 本島人	
			明治30（1897）年	大甲街 副街長
			明治44（1911）年	台中庁大甲区 区長
			大正9（1920）年	大甲郡役所 庄長
			大正9（1920）年	大甲郡役所 庄長



蚊帳 (NET画像引用)



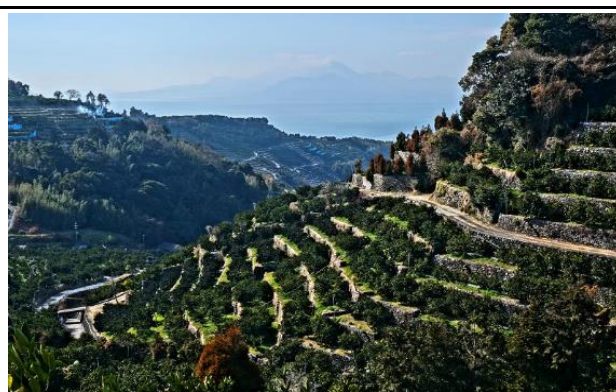
大甲帽蓆株式会社第一制帽工廠正門
1903年撮影（大甲鎮誌引用）



14 島村ソデ

ソデの素性については哲太郎も語らず、ソデから直接聞いた人もいないので明らかでないが、河内村出身の人であると言われている。

明治30年頃の河内村は、現在の熊本市河内町河内のことで、熊本市の西北に位置し、金峰山と二の岳より西南に広がる裾野を切り開いてできた村である。河内のみかんが特産品になったのは、天明2年（1782年）河内の領主牛島七郎左衛門橘公基が小みかんより優良な温州みかん栽培を奨励したことにはじまる。当時、みかん農家は米を作る農家と比べ生活は苦しかったようで、ソデも口減らしのため台湾へ女中として渡ったものと推測する。熊本県からの台湾への移民の職種では、女中は1パーセントと極めて少ない。



河内みかんと段々畑（河内みかんの歴史引用）

台湾職業

職種	人数	職種	人数	職種	人数	職種	人数
公務員関係	1259	銀行	34	無職	254	料理人	21
会社員	1032	旅館	30	商業関係	223	運転手	10
警察関係	551	理髪	28	土木関係	55	家政婦	9
学校関係	511	看護関係	26	女中、仲居	49	計	4729
鉄道関係	252	漁業	24	医師	37		
農業関係	266	衣服関係	22	日雇い	36		

熊本から台湾への移民について（和田英穂）引用



牛島七郎左衛門の墓所

○ ソデとの因縁

ソデは、哲太郎が縦貫鉄道工事中の伯公坑で御用商人として店を開いているとき、女中として雇い入れた。ある夜、土匪の襲撃に遭い、哲太郎はソデの気転で竹垣を破って抜け出せたが、ソデは鎗で突かれ、そのため、足が不自由になったと伝えられている。伯公坑一帯は、雑木林の中に竹林が群生していて、現在も野生の猿や猪から畑を守るため、竹柵をしていることから、当時も竹垣をしていたことがうかがえる。

また一説には、ソデが台中から大甲に来る途中、大甲溪を渡り、崩山頭という約1,100メートルの絶壁の下を通りかかると、土匪が現れてソデを捕まえ、持ち物を奪ったうえ、裸にして木にくくりつけて逃げ去り、たまたま、そこに通りかかった哲太郎が助けて大甲に連れて来たとの噂もあるが、真偽は定かでない。誰でもソデの事を、哲太郎の妻と思ったのが当たり前で、ソデは、哲太郎にまめまめしく仕えた。遺言に、財産全部をソデに与えると書き残してあるところを見ると、ソデがいかに真心を以て哲太郎に仕えたかがわかる。哲太郎の死後は、教え子たちがお金を出し合って彼女を扶養している。



資材運搬線跡に竹林がところどころ群生 H29. 11撮影



竹柵をした伯公坑の畑 H29. 11撮影



崩山頭 (NET画像引用)

○ ソデの墓

ソデの墓は哲太郎の墓の向かって左に、日本式石碑で建てられている。碑面に「信楽院積尼妙誓之墓」、裏面に「忠婢島村ソデ、昭和五年三月二十日寂、行年六十五才」とある。年齢は哲太郎より1つ年下である。墓は哲太郎の教え子たちによって建立された。台湾側の説明によると、島村ソデは哲太郎の死後、公学校の宿舍を出て、法名信楽院積尼妙誓として出家したが、出家先のお寺までは分からないのであった。昭和12年の大甲街図では、東本願寺布教所が大甲唯一の寺院であり、水源地の近くにある。ソデは、大正14年2月、哲太郎の告別式出席者への礼状に「台中本願寺に哲太郎の永代供養料として寄附致し候」と書いており、この布教所が同じ東本願寺派であり、ソデはその後も大甲に住み続けたことから、同所がソデの出家先であろうと推測する。戦後、日本の寺院は国民党政府に接取されて廃寺となったため、詳細は判明しない。



島村ソデの墓(左が正面、右が裏面) 埋葬跡 (手前の長方形) H28. 2撮影



昭和12年大甲街図(大甲区公所提供)

15 街民の理解者・相談者

台湾人は、極端に警察官を恐れた。子供も、サーベルの音を聞くと逃げたほどである。

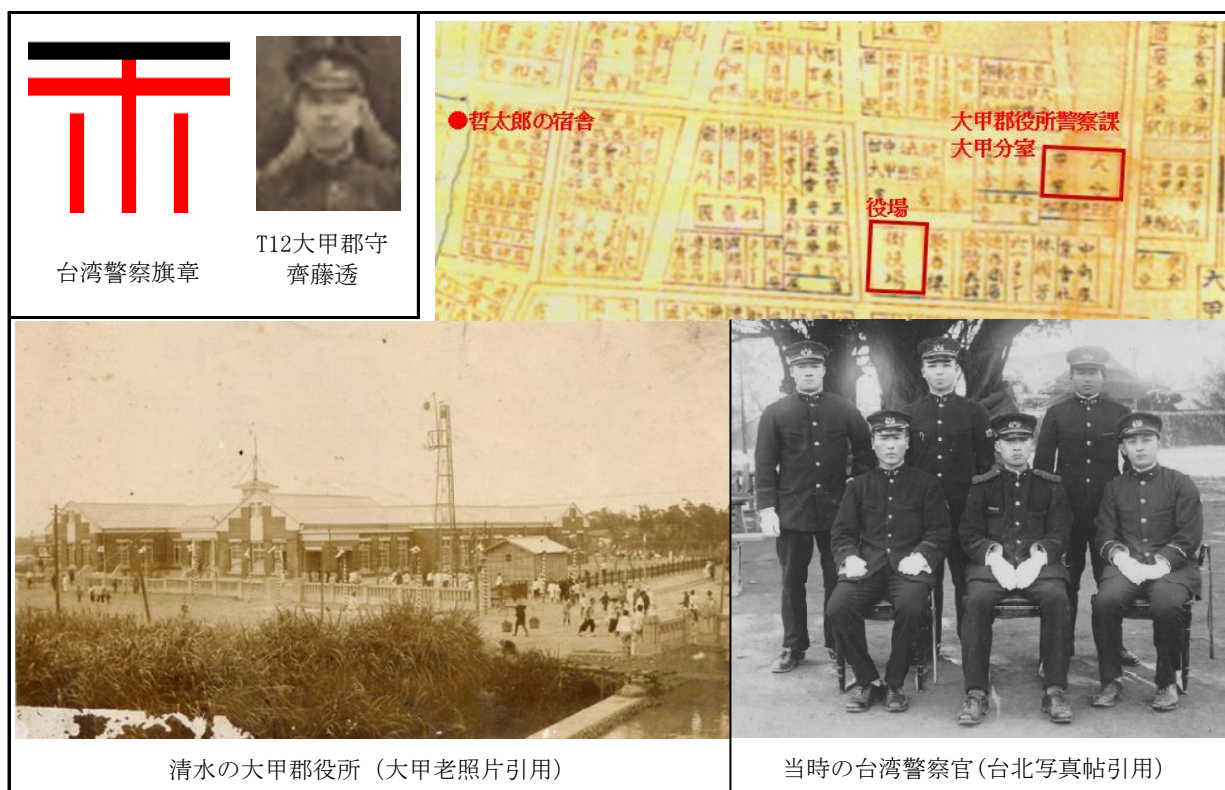
台湾の警察制度は、明治31年に確立され、翌年、保甲制度という台湾人により監視・密告・摘発する組織を確立した。警察は、総督府の警察局をトップに、州庁の警察部、郡役所警察課、街庄の分室、派出所及び駐在所で、これらの下に保甲、壮丁団の組織があり、くまなく警察網をはりめぐらせていた。任務は、犯罪捜査のほか言論・政治の規制、留学生の監視、納税の督促などである。大甲街の管轄警察は、清水にある大甲郡警察課で、大甲駅近くに大甲分室を置いていた。

朱麗は保甲局長、教え子の黄清波は保甲連合会長、李進興は大甲荘丁団長、教え子の王守信は外埔荘丁団長の経歴を持つ。

当時の税の督促は過酷で、法律に弱く、官憲に抵抗できない大甲街民は、よく哲太郎の所に来ては苦衷を訴えた。哲太郎は代弁者となり、警察や弁務署に行って処理した。哲太郎の行動は、常に台湾人の味方であった。

教え子が大きくなり、社会的に活躍し出すと、警察と衝突することが多くなった。警察が理不尽にも、何やかやと理由をつけて、引っ張って行こうとする。そんな時、悲憤やる方なく、哲太郎のところに来て訴えると、哲太郎は「衝突はしてもよい。警察に間違いがあれば直してやりなさい。しかし、怪我をしては馬鹿らしいから気をつけなさい」と諭した。そして、よくよくの場合は、哲太郎自身、警察に出向いて取り成した。警察も飲み合った熊本県出身者が多く、内地の安達閣下の友人で、家永庁長の推薦教師という事もあって、哲太郎を無下に斥けることはしなかった。

哲太郎は、日本人も台湾人も同一と見る連帯感の強い、慈悲の豊かな持ち主であった。これは、当時、孫文が唱えた三民主義（民族主義、民生主義、民権主義）と同じ考えで、記者時代に交友があった宮崎滔天が孫文を支援していたことも影響しているのかもしれない。宗方小太郎日記では、宗方は哲太郎のほか、孫文や滔天とも接触がある。



○ 大甲郡警察 昭和16年台中州統計書

組織	警察課	課分室	派出所	計
	1	1	22	
階級別 職員数	警部	警部補	巡查	143
	4	3	115	

○ 大甲郡保甲制

保甲	保正	甲長	計	計
	143	1392	1435	
壯丁団	団長	副団長	壯丁	計
	22	140	1,040	



保甲任務図 (保甲海報引用)



壯丁團任務図 (壯丁團海報)



大甲保甲局長
朱麗 当時26歳



大甲莊丁団長
李進興 当時24歳



保甲連合会長
黃清波 当時24歳
M40卒



外埔莊丁団長
王守信 当時30歳
T 7 卒



孫文



宮崎滔天
(宮崎寅藏)



明治38年中国同盟会
右端が孫文、後方中央が滔天
(宮崎滔天全集引用)

宗方小太郎日記

大正八年
九月十八日 快晴。午後理髮、篠寄を訪ひ、去て宮崎寅藏を勝田館に訪ふ。昨日来着せる者也。上海日報社に至り小坐、帰る。佐々木金次郎の訃至。七時商船会社武田近次郎の招宴に俱樂部に列し、十時帰。
九月二十四日 晴。長沙塩島少佐に致書す。宮崎寅藏来訪。夜余洵来訪。
大正五年
五月二十日 晴。新嘉坡に在りし岑春煊是日より上海通過、日本に赴く。孫文に会見の為なり
七月二日 晴。小談、山田宅に帰り孫文に面し、五時帰寓。七時北京会に俱樂部に出席す。
七月二十日 晴。七時支那上下兩院議員の招宴に一品香に赴く。青木、有吉、孫文、唐紹儀、伍廷方、王正廷、張繼、温宗堯、王寵惠、鈕永建、柏文蔚、吳景濂、孫洪伊、章炳麟、胡漢民、以下会する者五十八人許。
七月二十三日 半晴。七時青木中将、有吉領事の招宴に俱樂部に赴く。来賓は孫文、唐紹儀、伍廷方、黃興、章炳麟、張繼、以下四十人許。
七月二十五日 晴。黃興の招宴に康納脱路徐園に赴く。主人側は黃、孫文、唐紹儀、伍廷方、張繼、王正廷、胡漢民、以下五十人許。
十二月二十八日 半晴。响午津田少佐来訪、共に潮梅有志の招待に一品香に赴く。支那側は唐紹儀、孫文、譚人鳳、于右任、胡漢民以下三四人。

16 戸口調査委員

哲太郎は、台湾総督府の命で、戸口（とぐち）調査委員に任命されている。調査委員は、役場の職員、教師等の日本人官吏があたり、友人の役場助役武藤友次郎も、その一人である。戸口調査は、台湾統治にあたって、人口動態の調査のことで、各家庭を訪問し、戸口調査簿に、家族構成の異動の有無を記載するものである。この調査は明治38（1905）年と大正4（1915）年に行われ、哲太郎は、いずれも大甲街（明治38年は苗栗廳第33監督区第7調査区、大正4年は台中廳第53監督区第5調査区）の担当調査委員として、調査にあたった。ここに大甲街97番地杜香國ら家族等の戸口調査簿（「以日治時期戸口調査簿初探大甲街女性婚姻」李慧婷より引用）があるが、筆跡から哲太郎が書いたものと思われる。



大正四年八月三十一日
臺灣總督府
臺灣總督府
大正四年八月三十一日
臺灣總督府



番地	戸主	職業	商號	番地	戸主	職業	商號
3	吳炳輝	帽子商		53	柯生	帽子商	
4	吳聰良	貸地業		56	黃文	吳服商	
5	陳廷岳	帽子商		60	楊天賜	金物商	
6	莊炎	米仲賣商		64	葉惡	雜貨商	
14	黃良	米搗業		72	陳文乾	雜貨商	
18	林國芳	米仲賣	林國芳	86	王鎮蘭	飲食物行商	
18	林炳規	貸地業		91	蘇海	貸地業	
18	張月淋	貸地業		91	葉有成	貸地業	
20	宋明	帽子商		95	陳永傳	帽子仲賣商	
23	王炳煌	雜貨行商		96	張長	冰販賣	
24	郭展亨	代書業		97	王昭碩	雜貨商	德明商店
25	吳視	雜貨商	源同發	97	杜香國	食品料	共榮商會
37	王却勢	宿屋		97	王灶	帽子販賣業	益興商會
38	王天成	飲食物販賣業		97	楊金城	金銀細工業	金寶珍
42	梁添桂	貸地業		97	陳啓明	帽子商	德明商店
44.45	杜聰朝	材木商行	日勝材木商行	98	葉樟蕃	雜貨商	
44.45	杜瑞抱	貸地業					



大正四年八月三十一日
臺灣總督府
大正四年八月三十一日
臺灣總督府
大正四年八月三十一日
臺灣總督府

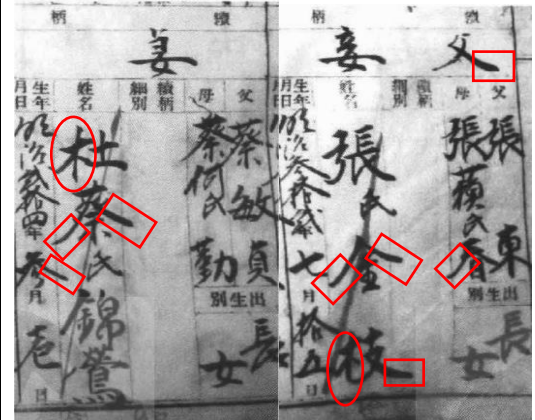
戸口調査委員任命書
(参考例)

戸口調査副簿

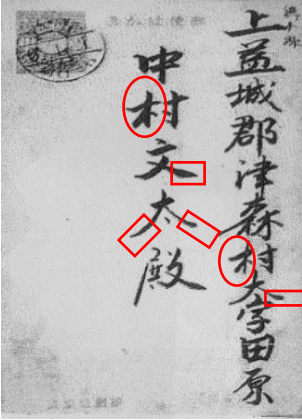
履歴書の戸口調査委員任命
(大甲区公所提供)

志賀哲太郎の字と思われる理由


- 志賀記念室に展示してあった身上記録（写し）で、哲太郎は明治38年7月27日戸口調査委員に任命され、同年9月15日、苗栗廳監督区第7調査区を担当する。大正4年8月10日、再び戸口調査委員に任命され、同日、台中廳第53監督区第5調査区を担当している。（いずれも大甲街担当）
- 「大甲老照片二」掲載の大正4年の写真に戸口調査委員8人の写真（志賀哲太郎の顔は写真のシミで判明しない）があるが、この8人で、大甲街の戸口調査を行ったものと思われる。
- 「以日治時期戸口調査簿初探大甲街女性婚姻」には、他の家族の調査記録も掲載されているが、哲太郎の筆跡と、明らかに違っている。
- 筆跡鑑定は、同種文字で行うのが原則であるが、大正6年に中村文太宛の葉書と比較すると「きへん」、「左払い」、「右払い」がよく似ている。



哲太郎が書いたと思われる文字



哲太郎が大正6年に書いたはがき



志賀哲太郎
戸口調査委員
明治38年 当時39歳
大正4年 当時49歳